

令和元年度第 1 回千葉市図書館協議会議事録

1 日 時 令和元年 5 月 30 日(木) 14 時 00 分～15 時 40 分

2 場 所 千葉市消費生活センター3 階 研修講義室

3 出席者

(1) 委員

伊藤直樹 委員・松尾修一 委員・石渡明子 委員・倉沢良典 委員
佐々木雅美 委員・十倉典子 委員・吉野知義 委員・綾部輝幸 委員

(2) 事務局

安部中央図書館長・高石みやこ図書館長・山崎花見川図書館長
石井稲毛図書館長・中島若葉図書館長・和田緑図書館長・藤代美浜図書館副館長
太田中央図書館情報資料課長・稲葉中央図書館管理課長
平岡中央図書館管理課担当課長

(3) 傍聴人

9人

4 議 事

(1) 委員長の選出について

(2) (仮称)新図書館計画策定方針(案)について

(3) 2040 年頃に想定される社会構造の変化とその影響等について

5 概 要

(1) 委員長の選出について

委員の互選により、吉野知義委員が委員長に、綾部輝幸委員が副委員長に選出された。

(2) (仮称)新図書館計画策定方針(案)について

意見を踏まえ事務局で検討を行うこととし、概ね案のとおり承認された。

(3) 2040 年頃に想定される社会構造の変化とその影響等について

配布資料を用いて説明を行い、2040 年頃の社会構造を前提に計画策定を行うことで合意された。

6 会議経過

<開 会>

○図書館協議会委員の紹介

○事務局の紹介

○会議資料の確認

○定足数の確認(図書館協議会委員 5 人の出席が必要なところ 8 人出席のため成立)

○会議の公開についての説明

○中央図書館長あいさつ

<議事>

(1) 委員長の選出について

吉野副委員長 それでは、委員長選出までの間、議事を進めさせていただきます。

まず、次第の議事(1)委員長の選出についてですが、お手元にお配りしております「千葉市図書館協議会 委員名簿」をご覧ください。委員長は、千葉市図書館管理規則第24条第1項の規定により、委員の互選によるとされております。委員の皆様よりご意見はございませんでしょうか。

松尾委員 はい。委員長につきましては、千葉市図書館情報ネットワーク協議会にも長く携わり、また図書館に関する学識経験者でもある、吉野委員さんをお願いしてはいかがでしょうか。

吉野副委員長 ありがとうございます。ただいま、松尾委員さんから、ご意見がございましたが、いかがでしょうか。

委員 <<異議なし>>

吉野副委員長 ご異議ございませんので、委員長につきましては、私が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

<<吉野委員長あいさつ>>

吉野委員長 副委員長が空席となりましたので、続けて副委員長を選出したいと思います。委員の皆様よりご意見はございませんでしょうか。

では、私からですが、副委員長には、庄司前委員長の後任で、千葉大学附属図書館からご就任をいただいている、綾部委員さんをお願いしてはいかがでしょうか。

委員 <<異議なし>>

吉野委員長 ご異議ございませんので、副委員長に綾部委員さんが選任されました。それでは、大変恐縮ではございますが、副委員長席にお移りいただき、ご挨拶をお願いします。

<<綾部副委員長あいさつ>>

(2) (仮称)新図書館計画策定方針(案)について

吉野委員長 それでは、次第の議事(2)(仮称)新図書館計画策定方針(案)に入らせていただきます。まず、事務局から説明をお願いします。

平岡担当課長 中央図書館管理課 読書環境整備計画担当課長の平岡です。議事(2)(仮称)新図書館計画策定方針(案)について、説明いたします。

<<(仮称)新図書館計画策定方針(案)に関する説明>>

吉野委員長 (仮称)新図書館計画策定方針(案)について説明がありましたが、このことについて、御質問・御意見がありましたらお願いいたします。

石渡委員 策定方針での計画の目標年次は2040年とされています。20年後は、ずいぶん先のことであり、わかりづらい部分がありますが、なぜ計画の目標年次を2040年に設定したのでしょうか。

現在あるサービスプラン 2010 を廃止し、必要な施策については、新図書館計画に引き継ぐこととするとありますが、必要な施策について説明をお願いします。

策定の趣旨に、みずほハスの花図書館の記載があります。子どもたちが利用しやすい環境づくりは、みずほハスの花図書館に限定されたことではなく、他の地区図書館・分館でも取り組んでいると思いますがいかがでしょうか。

平岡担当課長 計画の目標年次についてです。次の議事にもあります社会構造の変化に対して、国等の検討では 2040 年を一つの節目としています。AI(人工知能)が人類の知能を超える転換点であるシンギュラリティ(技術的特異点)は、2045 年を想定されており、その先は想像し難いため、総務省はじめ国等においては、目標を 2040 年としています。また、2040 年までは、人口減少など、これまで右肩上がりであった時代から大きく変化することを踏まえて、新図書館計画の目標年次は 2040 年として考えています。

現在の国等の計画のトレンドも、これまでの延長線上を描くのではなく、2040 年頃の社会構造の変化を想定していく中で、あるべき将来像を描いて、そこに向けてどう取り組んでいくのか考えています。図書館としても、激動する時代の中で、2040 年にどのような図書館であるべきか将来像を描き、そこに向けて取り組んでいく必要があると考えています。

次に、サービスプラン 2010 を廃止した際に、新図書館計画に引き継ぐ必要な施策についてです。引き継ぐ必要な施策については、図書館協議会委員皆様からの御意見をいただきながら、事務局でも検討をして、整理させていただきたいと考えています。

第三に、策定の趣旨ですが、子どもたちが利用しやすい環境づくりは、みずほハスの花図書館に限ったことではありませんが、近年での取組として、子どもたちが寛ぎながら読書できるスペースを設置するなどしているため記載をしています。

他の図書館でも子どもたちが利用しやすい環境づくりをしているのではないかと、というお話がありましたが、まさにそのとおりであり、他の図書館でも創意工夫しながら取り組んでいるところです。

十倉委員 サービスプラン 2010 の廃止に関して、必要な施策を引き継ぐ旨の回答がありました。そもそもなぜサービスプラン 2010 を廃止するのか理由をお答えください。

図書館網計画は昭和 45 年策定と古い計画のため、廃止するのはわかります。少しゆずって、読書環境整備計画についても、必要な施策を新図書館計画に引き継ぐのであればわかります。しかし、サービスプラン 2010 は今の千葉市図書館の基本の大事な部分だと思います。サービスプラン 2010 を大事にして、千葉市図書館をこれまで運営してきたと思いますので、廃止する理由をお聞きしたいと思います。

策定方針 2 ページ 5 策定に当たっての基本的な考え方「(2)ウ 図書館機能の選択と集中」についてです。ここでの図書館機能とは何でしょうか。また、選択と

集中については、意味が具体的にイメージできませんので、ご説明をお願いします。

策定方針 2 ページ 5 策定に当たっての基本的な考え方「(3)イ 2040 年頃の社会構造の変化と図書館への影響」についてです。ここに記載されている市民公益活動とは何でしょうか。

意見ですが、策定方針 2 ページ 5 策定に当たっての基本的な考え方 に職員の人材確保と養成・研修など、人の問題について必ず記載していただきたいと思います。千葉県立図書館基本構想にも、きちんと職員の研修は書かれていると思いますので、千葉市の新図書館計画にも必ず記載していただきたいと思います。

平岡担当課長 1 点目、サービスプラン 2010 を廃止する理由です。さきほどお話しさせていただきましたとおり、これまでの計画は、人口が増加していく右肩上がりの社会の中で策定しています。しかし、これからの計画は、人口減少やテクノロジーが発展していく社会の中で策定するため、今までの延長線上では対応が難しい、という発想で、これまでの計画を一度リセットさせていただいて、次の時代に向けていきたいと考えています。

たしかにサービスプラン 2010 は、これまでの図書づくりにおいて大事な部分であると、私たちも認識しています。そのため、大事な部分に関しては、必要であれば新図書館計画に引き継いでいきたいと考えています。

図書館機能の選択と集中についてです。具体的にはこれからの検討になりますが、これまでの図書館はある程度均一的でしたが、これからは、各図書館の強い部分を選択するなど、少しずつ特長のある図書館にしていきたいと考えています。

集中については、まず中央図書館の機能を高めていかないといけないと考えています。千葉市の中核となる中央図書館がしっかりしてこそ、市図書館全体のレベルアップにつながると考えているためです。そういう意味で、人材育成にも関連すると考えています。これから人口が減少、特に労働人口が減少する中で、人材確保の競争は激しくなることが想定されます。これは、図書館も例外ではないため、人がやらなければならない仕事や、サービスとして付加価値の高い仕事に、貴重な人材を集中的にシフトしていかないとはいけません。そうすると必然的に高いレベルが求められるため、人材育成は重要な要素だと考えています。

文言として、人材育成は記載されていませんが、事務局としては、サービスを生み出すのは人である、ということは肝に命じていますので、しっかり検討していきたいと考えています。

十倉委員 図書館機能の選択と集中について、もう少し詳しく聞かせてください。中央図書館を強化するということですが、具体的に今の図書館の数を減らすなど、そういうことがあるのでしょうか。

中央図書館に大事な機能を集約する、というやり方も理解はできますが、優秀な人材がすべて中央図書館に集まってしまい、例えばレファレンスの問題ですが、自分の近くの図書館で質問をしたが答えられなかった場合に、中央図書館に聞く

のでお待ちくださいと答える、あるいは中央図書館に行ってくださいと答える、ということになってしまうと、図書館からどんどん人が離れてしまうと思います。そういうことも考えていただきたいと思います。

人のことについて、大事だと仰っていることは本当だと思いますので、大事だと仰るだけではなく、是非文章にしてこの策定方針に記載してほしい、そういう意見です。

平岡担当課長 文章化することについては検討させていただきます。文章化されなかったとしても、この策定方針がすべてではなく、今後相談させていただければと思います。

さきほどの市民公益活動の質問について、御回答が抜けて申し訳ございません。市民公益活動については、最近は公助もありますので、具体的にはNPOやボランティア活動等、一般的なものを想定しています。今後、進展していくという期待もありますので、文言として記載しています。

松尾委員 みずほハスの花図書館の整備に携わっており、将来の図書館モデルの一つとして整備した経緯があるため、策定方針の趣旨に記載されているのだろうと感じています。

今後、働き方改革等もあり、外国人が相当数増えたときに、図書館をどのようにすべきなのかなど、様々な問題が出てくると思います。そういった状況等も踏まえ、今後じっくり考えていく、ということだと思います。

通信技術の発展では、例えば20年前は携帯電話が普及し始めた時代で、さらに20年前は黒電話の時代でした。約40年前は、携帯電話やスマートフォンは想像もしていない時代です。

今から20年後はAIも普及し、相当数のものがAIに取って代わる等の、社会構造の変化を想定しながら将来像をつくる、という難しい課題に取り組むベースがこの新図書館計画になると思いますので、基本的な考え方に様々なことを集約して入れ込むことは、おそらく不可能だと思います。

図書館をつくるときに、図書館を図書館だけでつくる時代はおそらく終わると思います。例えば、図書館と郷土博物館、あるいは美術館などと一緒に、人を呼び込むものをつくるなど、行政の機関を乗り越えて、市民に対するサービスを総合的に考えていかなければいけないと思います。図書館が図書館のことだけを考えるというよりも、市民にどういう利便性のある施設をつくっていいのか、ということも視野に入れて考えていかなければいけないです。難しい課題ではありますが、そういう考え方が必要だと思います。

安部中央図書館長 皆様方、いろいろなご意見をいただきありがとうございました。

今の段階では、いろいろな選択肢を含めて、考えていくべきだろうと考えています。なぜこれから20年間か、という議論もございました。これに関しては松尾委員からお話しいただいたような部分があります。大きなトレンドをとらえながらやっていかないと立ち行かなくなってしまう、と考えています。千葉市は市民一人当たりの借金が103万円あります。これにつきましては、7年間で10万円ずつ減らしてきま

したが、いまだにこれだけあり、政令市の中では財政状況が非常に悪いとも言われています。そういった中でも、図書館サービスは非常に重要であると認識しており、図書館をどのように残していくか、また令和時代の子どもたちをどう育てていくか、ということが大事だと考えておりますので、引き続きご意見をいただければと思います。

綾部副委員長 さきほどの松尾委員の発言と重なりますが、日本社会の変化について、人口減少や少子高齢化の他にも、外国人が増えていて、その方たちとどう共生していくのかが非常に大きな問題です。これは策定方針の基本的な考え方で一言触れていただいてもよいのではないかと思います。

20年後さらに外国人が増えて、日本社会にいろいろな良いことや悪いことが起きたときに、20年前を振り返り、この策定方針では触れてなかったという、どうなのかな、という気がします。外国人への図書館サービスも重要ですし、例えば中央図書館の蔵書を見ますと、外国人向けの蔵書が開架の目立つところにあり、非常に良いと感じました。

また、図書館サービスから出発するのの一つですが、広く多文化共生という言葉もあり、外国人と何かやっていくということでは、例えば公民館の活用について一体となったサービス支援があると良いと感じました。

十倉委員 策定スケジュールについてです。4月に業務委託開始とあり、既に始まっていると思いますが、策定方針の叩き台はどなたが作られたのでしょうか。また、既に図書館長会議や庁内検討会に諮ってから、この図書館協議会に諮っているのか教えていただきたいと思います。

8月に素案が検討されるようですが、策定方針と同じような流れをとるのでしょうか。図書館流通センターの方が計画を作っていくということですが、市の方と具体的にどのようなやりとりが、どの程度あるのか教えてください。

皆様がいろいろな意見を仰られたところですが、ご説明いただいたところでは、これから社会の状況が変わるということはよくわかります。そういう難しい問題を考えるときに、すごく勇み足な感じがしています。いろいろなことを考えてできるのか、と思うところもありますので、このスケジュールに書いてあること以外に、計画を作るに当たって、具体的にどのように進めていくのか教えていただきたいと思います。

平岡担当課長 策定方針は事務局で叩き台を作り、図書館長会議、庁内検討会に諮った上で案となり、本日の図書館協議会に諮っています。こういったプロセスを踏み、まずは図書館全体での検討を行い、各関係課等から意見をいただき策定しています。

計画素案の作成にあたりまして、同様に、まず図書館としてどう考えるか検討し、市全体として調整を行い、図書館協議会で御審議をいただく流れで考えています。

今回の計画は策定方針でも示しているように、具体的なものというよりも、どういふものを目指していくのか、というグランドデザインになると考えています。十倉委

員の仰るとおり、具体化するところまで、この1年で検討するとなると、かなり厳しいです。2040年に向けた図書館づくりの方向性、そこに向けて取り組むこと、といったグランドデザインを作りあげていこうと考えています。

具体的な取組につきましては、策定方針の中にもありますように、実施計画や予算編成等において行います。また、人材育成については、例えば横浜市では司書職人材育成計画を作っていますので、場合によっては、個別のプランをつくり、進めていくことも、一つのやり方だと考えています。

あくまで今回は、今後20年間の図書館づくりについて、どういう方向を目指していくのか、という大きいところを掲げていくような計画を想定しています。

十倉委員 ご説明ありがとうございます。大きいところでみていくということはわかりました。

この策定方針の、感想や印象ですが、今までの図書館が作ってきた計画と毛色が違うというか、これが千葉市の図書館計画ですか、という感じがすごいです。今まで、千葉市の図書館が大事にしていたことはきちんと踏まえていただきたいですし、図書館の本当に大事なところ、基本的な理念、図書館法、社会教育法、図書館の設置及び運営上の望ましい基準など、そういうところは必ず踏まえていただきたいと思います。

計画を委託して作るにしても、千葉市の図書館、市職員の図書館に対する責任や誇りを是非大事にして作っていただきたいと思います。委託された事業者も、千葉市の図書館を全部見てきてください、とも言いたいところですし、千葉市の図書館の計画を作るということをしっかりやっていただきたいと思います。

それには、スケジュールを見ると、市民の意見を聴く機会が少ないと思います。アンケート調査も既に済んでいて、シンポジウムやパブリックコメント手続きも実施するようですが、これまでパブリックコメント手続きで意見を出しても、なかなか反映されることもありませんでしたので、素案を作るまでの段階で聴いていただくなど、市民の意見や各地区図書館で働いている職員の意見など、細かいところもきちんとわかった上で、計画は作っていただきたいと思います。

平岡担当課長 貴重な御意見ありがとうございます。骨格の部分にもなりますので、十倉委員が仰られた部分につきましては、事務局でも、市職員へのアンケート調査、それからどういうタイミングになるかはまだわかりませんが、シンポジウムの他に、市民への説明を丁寧に行っていこう、というアイデアも持っています。

御意見は参考にさせていただき、計画策定に活かしていきたいと考えています。

松尾委員 例えば資産経営課の附属機関である資産経営推進委員会の委員さんには、千葉市の箱物行政について縮小化を意見する方も多くいます。市内部で資産経営課や業務改革推進課などと話し合いをするときには、そういった意見も反映しないといけません。

図書館だけは変わらないでいられる、という状況ではなく、図書館も非常に厳しい指摘を受けていると推測できます。本当に将来像を考えているのか、ということを押つけられるわけで、そういう方向性を入れていかないと、今までの図書館の

形で継続していくということはおそらくありえないし、認められない状況になると思います。

そこに対して大きなガイドラインを作り、最低でもなんとか今の状況を維持していこうと、苦しい中でやっついこうとしているのだと思います。

安部中央図書館長 皆様、図書館を心配していろいろな御意見を頂戴しましてありがとうございます。最初の十倉委員のご質問の趣旨は、コンサルタントが計画を作りますと、どの自治体でも中身が同じで、表紙だけが変わっているようなことが散見されますが、そういうことではいけないというご指摘かと思います。

さきほど担当課長から話がありましたとおり、この策定方針はコンサルタントではなく、私たちが作ったものです。魂は私たちが込め、そして本市の良さを踏まえながらやっていきたいと思います。コンサルタントの皆様には、もちろん専門家として、私たちが気付かない知見もごございますので、そういったところでお力添えをいただくというものでございます。

松尾委員のご指摘につきましても、本市の良さを維持しながら、一方で、さきほど申し上げましたとおり、市民1人当たり103万円の借金を背負っています。夕張市が財政破綻したことはご存知かと思いますが、千葉市はもちろんそういうことになってはいけないわけであり、私たちは図書館サービスをきちんとやりながらも、将来世代に責任をもった行財政運営を行っていかないといけない、ということであるような選択肢を検討していきたいと考えています。

石渡委員 いろいろと説明ありがとうございます。説明を伺い、資料を見ても、いわゆる学者などではなく素人なので、はっきりとはよくわからない、というのが大きな感想です。

資料をよくよく見るのですが、時代が変わるということは分かりますが、具体的に、館長さんはじめ皆様がどういうことに問題点を持ち、改革をしていきたいのか、というところがよくわからないと思いました。

そのあたりは、次の資料で噛み砕いて教えて下さるのだと思いますが、逆にその話をよく伺わないと、このことに関して御意見ができないというのが正直な感想です。

さきほど十倉委員が仰られたことを、私も前回の図書館協議会で申し上げたのですが、人材の育成は非常に大切なことだと思いますし、市で文化を育てて、子どもたちを育てる、ということも非常に大切なことだと思いますので、そのことだけは大事にさせていただきたいと思います。

佐々木委員 みずほハスの花図書館に子どもと一緒に伺ったのですが、タブレット端末で子どもたちがヘッドフォンをして YouTube を見て遊んでいる姿があったので、子どもたちが利用しやすい環境を整えているという印象とは少し違いました。

子どもが本を読む施設としては使いやすく、子どもも楽しんでいましたが、例えばポスターの表記等が漢字では子どもには読めませんし、自動貸出機の使い方の説明も、とても小さい字で、漢字で書いてあるため、高齢者や子どもにやさしい

環境とうたっているのとは、少し違う印象を受けました。

策定方針 2 ページ「社会構造の変化や市民ニーズの多様化に弾力的に対応できる体制の構築」についてです。人口減少、少子高齢化は含まれていると思いますが、もう一つ、障害のある方も使いやすいような環境づくりを、是非進めていただきたいと思います。文章で記載してほしいということではありませんが、2040 年には技術が進歩していて、体に障害のある方も、たくさん外に出られるようになると思いますので、その方たちもたくさん図書館に来られるような環境を整えていただけると良いと思います。

平岡担当課長 みずほハスの花図書館についてです。子どもたちが利用しやすい環境というのは、寛ぎながら読書ができるスペースなどを意図しています。YouTube はタブレット端末を置いている関係だと思っておりますので、効果検証報告書の中でも挙げていますが、タブレット端末の活用の仕方を検討しないといけないと考えています。

当初は、ご自宅やお手元にパソコンやスマートフォンがないなど、インターネットが利用できない方向けにタブレット端末を設置しています。施設規模が小さく、蔵書数も限られた 2 万 5 千冊を目標にしており、少ない蔵書数のため、青空文庫などをタブレット端末で見られるようにしています。また、新聞も置いていませんので、報道の情報もタブレット端末で入手できる等の意図がありますが、私たちの思いがうまく動いていない部分もあり、課題であると思います。今後、どういう対応をしていかないといけないか検討が必要であると考えています。

障害者の方への対応は、まさに仰るとおりです。国全体で SDGs(持続可能な開発目標)において、個々人が最大限の能力を発揮できる社会を、国全体で目指しています。その中で、障害者の方もテクノロジーの進化によって、今まで参加できなかった作業や仕事に参加できるようになる、という視点は大切であると考えています。あくまで策定方針は、目指すべき方向性を示す性格のものであるため、具体的な内容につきましては、素案を作成していく中で障害者の方への対応も意識していきたいと考えております。

倉沢委員 有識者へのインタビューとシンポジウムの学識経験者についてですが、どういった方を想定していますか。

平岡担当課長 有識者やシンポジウムに登壇いただく学識経験者につきましては、まさに今検討をしています。有識者は大学教授の方で、公共政策に関して造詣の深い方、図書館情報学、情報工学について知見をもつ方を考えています。シンポジウムは、普段図書館を利用していない方、図書館に関心のない方にも計画策定を通じて関心を持ってもらう工夫は必要かと考えています。工夫の部分についても併せて検討しています。

吉野委員長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。それでは、次の議事に入ります。

(3) 2040年頃に想定される社会構造の変化とその影響等について

吉野委員長 続きまして、議事(3)2040年頃に想定される社会構造の変化とその影響等について事務局から説明をお願いします。

平岡担当課長 中央図書館管理課 読書環境整備計画担当課長の平岡です。議事(3)2040年頃に想定される社会構造の変化とその影響等について、説明いたします。

《2040年頃に想定される社会構造の変化とその影響等に関する説明》

吉野委員長 ありがとうございます。2040年頃に想定される社会構造の変化とその影響等に関する説明について説明がありましたが、このことについて、御質問・御意見がありましたらお願いいたします。

松尾委員 将来の社会状況を説明いただきましたが、図書館からすると、どのように図書館を守っていくか、という視点に立ち、時代に沿った図書館づくりをしていかないと、いろいろな内圧に負けてしまうと思います。

冒頭の挨拶にもありましたが、中央図書館の充実、地域住民の人口減少に合わせた新たな図書館の構築、施設の併合、複合施設などを検討していかないと、今説明があった社会構造の変化に伴う外部的な影響を大きく受けてしまいます。

特に財源が減ってくると、市民に密着した優先度の高い事業費は削れませんので、予算はつけられますが、図書館は非常に厳しい状況下に置かれると思います。今は、千葉市の将来の図書館をどうしたら守っていくか、ということに頭を悩ませていると思いますので、私たちもどのように千葉市図書館を守っていくか、というところで協力していけたら良いと思いました。

吉野委員長 ありがとうございます。私からで恐縮ですが、議事(3)については、松尾委員からご意見がありましたが、議論して承認する内容の議事ではないですね

平岡担当課長 そういうことではないです。

吉野委員長 この中でご不明な点があれば、ご意見をいただければと思います。

伊藤委員 2040年頃の社会構造の変化についてご説明をいただきましたが、人口減少、労働人口の減少、少子高齢化、などが想定され、今から20年後の図書館について審議するということで議事を提案されたのだと思います。

申し訳ないですが、最近私は図書館を使っていません。なぜかというと、調べたいことや、情報として知りたいことは、パソコン、スマートフォンなどインターネットの方が早いからです。すぐに調べられるので、主にインターネットを使っていて申し訳ないとは思いますが。

学校の現場では、子供たちは毎朝10分間読書をしていて、本には慣れ親しんでいます。学校図書館は、以前と変わらず結構使われていますが、公共図書館はあまり使われていないという調査結果も出ています。

学校で公共図書館を使うのは、例えば古典作品を集団で読みたいときに、40冊まとめて借りる場合など、というのが現状です。

これから20年後の図書館は、やはり魅力ある図書館、行きたくなる図書館が大

前提だと思えます。スケジュールに記載されている、7月開催の第2回図書館協議会の議事『2040年に実現したい図書館像と取組』で、より具体的な方針が提示されると思えます。それを見てもないと分からないですが、さきほどの2040年頃に想定される社会構造の変化とその影響等に関する説明を聴いて、今後の図書館は、図書館単独では生き残れないのではないか、と思いました。複合施設を作る、細分化する、公民館や商業施設の空きスペースを使うなど、そういうことを考えていくことが必要だと思いました。

吉野委員長 他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

平岡担当課長 2040年までの国全体の状況、千葉市の状況は、計画を策定する上でベースになりますので、委員の皆様とも、2040年の社会状況について共通認識を図るため、本日は説明をさせていただきました。

次回は、こうした社会構造の変化を踏まえて、2040年に実現したい図書館像と取組などを示したいと考えています。

2040年までの社会構造の変化は、暗くなる話も多いですが、未来の子どもたちに残してあげられるものについては、私たち大人がしっかり考えていきたいと思えます。その基礎になる新図書館計画で、素晴らしい図書館、魅力ある図書館に変えていけるように、しっかりしたグランドデザインを示し、そうした図書館づくりを進めるために、庁内外に働きかけていきたいと考えています。

次回の図書館協議会以降でも、実現したい図書館像などをお示しする中で、いろいろな貴重な御意見・御提案をいただければと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

吉野委員長 よろしいでしょうか。他にございませんでしょうか。では、議事は終了いたしました。事務局から何かございますか。

(4) その他

進行 次回の協議会についてですが、7月に令和元年度第2回図書館協議会を開催したいと考えております。日程等は、改めて調整をさせていただきますので、お願いいたします。

また、外部評価部会員にご就任いただきました、吉野委員長・石渡委員・十倉委員におかれましては、6月に図書館外部評価の作成についてご依頼をさせていただきます。作成いただいた外部評価の内容をもって、6月下旬～7月上旬頃に、外部評価部会を開催させていただきますので、ご多用のところ恐縮ですが、併せて御出席をお願い申し上げます。日程等は、こちらも改めて調整をさせていただきますので、お願いいたします。

事務局からは以上です。

吉野委員長 他に委員の方からも何かございませんでしょうか。

ないようでしたら、以上をもちまして、本日予定しておりました議事は終了いたします。

限られた時間の中で、貴重なご意見をありがとうございました。また、議事の進行に関しまして、皆様方のご協力をいただき、誠にありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しします。

進行 本日は、慎重なるご審議をいただき、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和元年度第1回図書館協議会を閉会いたします。

なお、本日の議事録につきましては、事務局で議事録案を作成し、委員長の承認をいただいて確定としてよろしいでしょうか。

委員 <<異議なし>>

進行 確定いたしましたから、委員の皆様にお送りいたします。

本日は長時間にわたり、慎重なるご審議をいただき、誠にありがとうございました。

<閉会>

【問い合わせ】

千葉市教育委員会事務局

生涯学習部中央図書館管理課

TEL 043-287-4081